

# 佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

## 佑啓会との不思議な「縁」に導かれて

石神 敏明

「人の縁とは不思議なもので、かつて本機関紙に寄稿された

現理事の堀口貴宏様が綴られたその言葉を、今、私は深く噛み締め

ています。私にとって堀口様は、

千葉県社会福祉法人経営者協議会

青年部会（以降、県青年部会）に

おける二代前の部会長であり、公

私ともに大変お世話になっていた

大先輩です。その背中を追うよう

に活動してきた私が、今こうして

筆を執っていること、一緒に佑啓

会の役員会に出席させていただ

ていることに、目に見えない強い

繋がりを感ぜずにはられません。

常務理事の里見吉佑さんとの出

会いは、二〇一六年の熊本地震支

援活動でした。東日本大震災以降、

継続的な被災地支援をおこなっ

きた県青年部会において、吉佑さ

んにとつてこれが初めての県外企

画への参加だったと記憶していま

す。私たちは益城町でのがれき撤

去や熊本市内での片付け、ゴミ出

しボランティアに汗を流しました。

一日目の過酷な作業後、当時の藤

代部会長の学友が営む郷土料理屋

での宴席。慣れない現場で疲れ果

てていたはずの吉佑さんが初参加

の緊張もあってか、一生懸命にお

酒を飲まれていた姿が目には浮かび

ます。

実を言えば、私自身もその夜は

存分に杯を重ね、情けないことに

翌朝は動けなくなるほど沈没して

しまいました。そんな私を尻目に、

吉佑さんは翌日もしっかりと支援

活動に励んでおられました。あの

時、被災地の厳しい現実と共に向

き合い、一緒に汗を流し、夜には

泥臭く盃を交わし合った経験が、

今の私たちが気兼ねなく語り合

る関係の原点となったのではない

かと、今改めて感じております。

二〇一七年、吉佑さんの結婚式

に参列させていただいた時のこと

です。県青年部会の先輩方と共に

会場に足を踏み入れた私は、そこ

で佑啓会という組織の「真髄」を

目の当たりにしました。披露宴の

最中、突如として「馬のお面」を

被った集団が現れ、会場全体を取

り囲んだのです。それは佑啓会の

職員の皆様による、愛に溢れた全

力のサプライズ演出でした。馬の

集団の見事な一体感に、少しだけ

空回り気味の熱量に思わず吹き出

しつつも、同時に言いようのない

温かな感動を覚えました。何より、

次代を担う吉佑さんが、これほど

までに職員の方々から慕われ、愛

されているのだという事実、胸

が打たれる思いがしたのです。



私自身、祖父が設立した社会福

祉法人の三代目として日々奔走し

ておりますが、あの時に感じた

「職員が自発的に動き、組織を盛

り上げる力」は、自分にはまだ足

りない、目指すべき一つの理想像

として心に深く刻まれました。

吉佑さんと深く語り合ったのは、

群馬県への視察研修の帰り道でし

た。複数の車両に分かれての移動

となりましたが、私は吉佑さんと

一緒にワゴン車に乗り込むことに

なり、確か私がハンドルを握り、

彼が助手席に座ったと記憶してい

ます。他の参加者が疲れから眠り

に落ちる中、車内で私たちは様々

な話をしました。

私の法人がどのような経緯で立

ち上がったのか、どんな職業を経

験してきたのか、今どのような課

題に取り組んでいるのか。はたま

た尊敬する偉人の話など、話題は

尽きませんでした。その中で特に

盛り上がったのが、人気漫画『キ

ングダム』の話です。私も知人か

ら全巻を借りて読み進めているタ

イミングであり、互いにお気に入

りの漫画だったようで、会話のテ

ンポは一段と上がりました。

吉佑さんは、作中に登場するキ

ヤラクターに自身の法人のスタッ

フをなぞらせ、「私の法人には、

羌痼（きょうかい）のような凄まじ

く強い女武将がいるんです」「王

騎（おうき）のように圧倒的な存在

感で無双するスタッフがいるんで

す」次々に主要キャラクターの名

前をあげながら（他にも多くの武

将が登場したと記憶しています）、

その言葉の端々から、彼がどれほ

どスタッフを信頼し、その層の厚

さを誇らしく思っているかが伝わ

ってきました。年下ではありますが

が、一人の経営者として、彼の

「人を信じる力」の深さに、改め

て強い敬意を抱いた瞬間でした。

その後、私が千葉県青年部会の

部会長を務めることとなった折、

吉佑さんから「佑啓会の評議員に

なつてほしい」との依頼をいただ

きました。私のような者が、これ

ほど大きな法人の評議員を務める

などおこがましいのではないかと

当初は戸惑いましたが、彼からの

真っ直ぐな言葉と信頼に応えたい

という思いから、大役をお引き受

けることとなりました。

就任前、里見吉英理事長との会

食にお誘いいただき、ご一緒させ

ていただきました。理事長は長年

にわたり、全国の業界団体の役員

を数多く歴任され、日本の福祉会

を牽引してこられた偉大な先達で

す。その圧倒的な実績とオーラを

前に、当時は非常に緊張して席に

す。評議員として佑啓会の役員会に

参加させていただくようになり、

議事を中心となつて進行される里

見吉英理事長のリーダーシップか

らも、毎回多くのことを学ばせて

いただいております。初めて参加

した当時は、その重厚な雰囲気

に大変緊張したことを覚えていま

す。そこで目にしたのは驚くべき

光景でした。役員会において、事

務局の説明の後に必ず理事長自ら

ご自身の言葉を添え補足し、事業

の細部に至るまで魂を込めて語ら

れる姿は、「大組織のリーダー」こ

そ、誰よりも現場を熟知し、深く

関わっていないと教えない」と

いう真理を私に教えてくれました。

まさに、大々たる組織を率いる

リーダーの真の在り方を、私は毎

回の会議を通じて肌で感じさせて

いただいております。



千葉県社会福祉経営者協議会 県外視察 in 秋田 岩手

引っぱりだこの存在です。現在、

千葉県からは「つながり創造委

員会」の綱島委員長や、「未来

経営実践委員会」の里見副委員

長が選出されており、また、県

青年部会の副部会長をはじめと

する委員の皆様も、毎回、全国

青年会の研修会に多数参加して

くださっています。そのおかげ

で、全国における千葉県の存在

感是非常に大きくなっており、

千葉県青年部会長としてこれほ

ど誇らしく、心強いことはあり

ません。

また、佑啓会のスタッフの皆様

も各地で行われる研修会にい

つも多く参加してくださってい

ます。研修後の酒席で親しくお

話をさせていただきますが、ど

なたも高い帰属意識を持ち、皆

が同じ熱量で自法人の未来を明

るく語る姿に接するたび、佑啓

会という土壌の豊かさを実感せ

ずにはられません。

結びに代えて佑啓会は、人間

味あふれる温かな場所でありな

がら、常に新しいことにチャレ

ンジし続ける情熱を持った組織

です。吉佑さんには、これから

もその豊かな感性と実行力で、

佑啓会のみならず、日本の福祉

業界全体の未来を、私たち仲間

と共に切り拓いていってくださ

ることを願ってやみません。

（社会福祉法人佑啓会 評議員）



## 二十歳を迎えて

山下 智子

息子が二十歳になったと聞くと、ひとつ区切りがついたような気がします。正直なところ、まだまだ実感はありません。それでも、これまでの時間を振り返り、自分の中で「よくやってきたね」と、そつと声をかけました。

現在、息子はふる里学舎五井の生活介護でお世話になっています。

息子は、日常の会話は少しできる程度で、言葉の理解もゆっくりです。自分の思いをうまく言葉にできず、苛立ったり、感情が大きくでてしまふこともあります。部屋で一人で過ごしている時には、独り言が増えたり、急に怒鳴ったりすることもあり、親として戸惑う場面は今も少なくありません。



成人式新年会での1枚

また、外に出るとそのまま行ってしまうことがあり、安全面を考えて靴の中敷きにGPSを入れるなど、日々試行錯誤しながら暮らしています。

十年前、初めて原稿を書かせていただいた頃と比べると、できることも増えましたが、悩みがなくなったわけではありません。年齢とともに悩みの形が変わり、考えることも増えてきたように感じています。

ふる里学舎五井では、施設長をはじめ、本当に多くの職員の方にお世話になっています。中でも、日常の子育ての悩みで不安になったときに

話を聞いていただいているのが藺田さんです。話を聞いてもらい、少し気持ちが軽くなったり、「しゅんくんなら大丈夫ですよ」と声をかけてもらい、背中を押してもらったことが何度もありました。顔を見るだけで、ほっとできる存在です。



また、昨年、息子が利用者さんとの間でトラブルを起こしてしまったことがありました。その際、間に入ってくださったのが、職員である宮木さんでした。以前からお世話になっている息子が、じっくりお話しするのはその時が初めてでした。

宮木さんとお話する中で、息子に寄り添い、人生の伴走者として関わってくださっている方なのだと感じました。その姿勢に、親としてとても心強さを感じたことを覚えています。

振り返ると、ふる里学舎全体の皆さんに支えられ、押し上げてもらいながら、私たち家族はなんとかここまで来ることができました。息子は家族だけで育ててきたのではなく、関わってくださったたくさんの方と一緒に、ここまで育ってきたのだと、今は感じています。

これから先、周りの親御さんと、結婚や孫の話など同じ話題で話すことは、きっと少ないと思います。それでも、比べることなく、恥じることなく、息子を親として大切に思い、向き合っていきたいです。

(ふる里学舎五井 保護者)

## 王座奪還

大高 賢人

令和八年一月十五日、千葉ポートアリーナで開催された大会での出来事は、私にとって今年度最も大きな出来事となりました。

まず、私が所属するバレー部についてご紹介いたします。当部は法人内でも随一の歴史を誇り、法人設立とほぼ同時期に始動いたしました。当初は千葉県知的障害者福祉協会主催の「男女混合九人制バレーボール大会」への出場に向け、経験者が不在の状態からのスタートだったと聞き及んでいます。平成十四年頃から徐々に経験者が増え始め、今年度の部員数は三十名を数えるまでになりました。幸いなことに、近年も若手の経験者が毎年複数名入部しており、活気に満ちています。

練習は毎週火曜日の夜、基礎からチーム練習まで、特に「チーム力の向上」を活動の主眼に置いて励んでいます。かつては少数の事業所による活動でしたが、現在は十一の事業所から職員が集まり、切磋琢磨を続けています。



我々が出場している年間行事には、三法人交流会(大久保学園・菜の花会の皆さまとの親睦)や、協会の地区大会・県大会があります。今年で三十回目を迎えた協会大会において、我々佐啓会は千葉地区大会で毎年優勝という成績を収めてまいりました。

県大会の軌跡を振り返りますと、平成二十八年度(第二十三回)の初優勝を皮切りに、令和元年度、そしてコロナ禍を経て令和四年度に優勝を果たしました。しかし、令和五年度は準優勝、令和六年度は宿敵である大久保学園に惜敗し、非常に悔しい思いを重ねてまいりました。

今大会のレギュラー陣には、県内屈指の強豪である習志野高校でセッターを務めた職員や、大学まで競技を継続した職員が四名加わりました。そこに過去の優勝を経験した熟練メンバー四名が合流し、正に「過去最高」と呼べる布陣で臨むことができたのです。

本大会は各地区代表の全十六チームが出場し、頂点には四度の勝利が必要です。トーナメントでは前年度の優勝・準優勝チームが両端に配されるため、順当に行けば準決勝で前年度王者と対戦する組み合わせとなりました。

一回戦の佐原聖家族園、二回戦の千手会との試合では、着実に勝利を収めることができました。続く準決勝は、前年度覇者の野栄福祉会との対戦です。相手のエースによる強力な攻撃にさらされましたが、粘り強くボールを繋ぐことで勝利を掴み取りました。

そして迎えた決勝戦。相手は長年のライバルである大久保学園です。個々のプレーが極めて安定しているチームであり、序盤は一進一退の拮抗した展開となりました。しかし、中盤から徐々に点差を広げ、最後はエースの力強いスパイクで勝利を決めることができました。

今回の勝因は、例年以上に「繋ぐ力」が安定していたことにあります。また、何より部員が練習に参加できるような配慮し、送り出してくださった各事業所の皆さんの協力があつたからこそ成し遂げられた結果です。

大会後の懇親会では、優勝の喜びと共に過去の思い出話にも花が咲き、勤続十三年の私にとっても「過去一番」と言えるほどの盛り上がりを見せました。



今年度はバレー部に限らず、野球部(六年連続優勝)、フットサル部(二連覇)も協会の大会で優勝を飾るという快挙を成し遂げました。この勢いに続き、バレー部も連覇に向けた盤石の体制を築くべく、さらなるチーム力の向上を目指してまいります。

現在は福祉大会のみならず、市民大会への出場機会も増やしており、チームは今後さらに発展していくと確信しています。私自身、レギュラーとしてコートに立てる機会はまだ少ないかもしれませんが、これまでの経験を後進に伝え、次世代へバトンを繋ぐキャプテンとして貢献していく所存です。

来年度に向けては、里見理事長より優勝記念の「新ユニフォーム作成」という嬉しいお話をいただきました。新しいユニフォームを身に纏い、再び頂点に立つために、日々の練習に邁進してまいります。

(ふる里学舎 支援員)

## 編集後記



佐啓会の福利厚生の一つ部活動  
各部活動の代表者が魅力をお伝えします！

新入職員四十五名と共に駆け抜けた令和七年度。船橋やパン工房という新たな事業が始まりました。次年度は千葉、君津での新規オープン控えています。拡大する佐啓会の勢いそのままに、次の一年もまた、瞬く間に過ぎゆく充実の年となるでしょう。

次年度も多数の新入職員が佐啓会に入社します。新たな風に期待を寄せて、佐啓一三五号をお届けします。

(支援員 栗川克明)